

折に触れ 四字熟語

NO. 348 【殊域同嗜】 しゅいき どうし

<意味> 外国人でありながら、自分と趣味・嗜好が一致していること。

用例：わたくしはこれを読んで私に殊域同嗜の人を獲たと思った。それゆえわたくしは漢籍において宋鑿本そうざんほんとか元鑿本とか云うものを顧みない。<森鷗外・渋江抽斎>

語訳：「殊域」は外国の意。「同嗜」は趣味が共通する意。

一言：テレビなどで日本を訪れた外国人を取り上げた報道をよく見ますが、日本食だけでなく様々な体験を通じて日本文化を評価する外国人が増えているようです。

参照文献：岩波書店「四字熟語辞典」

7・12・11 弁本 純